

# 学校現場、教育委員会、大学院生という立場から見えて

## きたもの

### その3 「研究とは財産運用の成果である」

#### 1. 教育委員会勤務をマイナスと捉えていた自分

6月号の原稿で「追い打ちをかけるかのように教育委員会に勤務することになり、実践フィールドからは更に遠くなりました。しかもキャリア教育の担当でもなかったのも、キャリア教育との距離がより一層遠くなってしまいました。研究への意欲がしぼんでいく自分を感じざるを得ませんでした。」と書きました。教育委員会勤務を「研究の意欲を削ぐマイナス要因」と自分は捉えていました。また、「教育委員会の勤務と博士課程での研究との両立は難しく、授業で最低限の単位をとるので、精一杯でした。そして、2019年度は休学することとしました。」と書きました。教育委員会勤務を「研究時間を奪ったマイナス要因」とも捉えていたのです。

#### 2. 教育委員会勤務は自分の財産

今年度から復学し、キャリア教育の研究を再スタートするため、松井賢二先生に研究計画に関して相談したところ、「中学校の実践にのみこだわらず、教育委員会のキャリア教育に関する施策も視野に入れた方がよい」というアドバイスを受けました。もう一度勤務した教育委員会の施策を振り返ってみると、自分が直接担当でなかったにせよ、キャリア教育の施策について知識は得ていたこと、また、自分の担当した施策もキャリア教育に関係していたことに改めて気づきました。自分は「キャリア教育の施策の理解の広がり、深まり」という財産を得ていたのです。先日、勤務した教育委員会や知り合いのいる教育委員会にキャリア教育に関する施策に関する資料の提供をお願いしたところ、快く応じていただきました。「人のつながり」という財産も得ていたのです。

#### 3. 研究とは財産運用の成果である

研究にはオリジナリティが求められます。中学校現場の他に教育委員会勤務という経験は自分の研究にオリジナリティを与える可能性があると思っています。

す。論文や著書を読むと、〇〇先生らしい研究と感ずることがあります。それはその先生が今までの経験や研究業績という財産を生かして、更なる研究をされているからです。財産運用の成果が研究と言えるのではないのでしょうか。自分には研究業績という形の財産は少ないですが、中学校と教育委員会の勤務経験は大きな財産であると思っています。その財産を運用して、諸先生方のように研究に自分らしさを出せるようにしたいと思っています。研究業績の少ない自分が言うのはおこがましいですが、若手の研究者の皆様には情熱や体力という資源があります。その資源を生かして、経験と研究業績という財産を積みあげ、それらを更に運用して自分らしさのある研究をしていただければと思っています。

#### 4. 自分との戦いに勝つための皆様へのお願い

本連載の6月号で博士論文の研究計画を作成中という表現をしておりますが、未だ作成中であります。自分の弱さをひしひしと感ずております。経験等の財産を運用して、自分らしい研究ができるかは自分自身にかかっています。一番の敵は自分です。教育委員会の仕事を言い訳にした自分は、自分との戦いに一度負けています。6月号でも、7月号でも研究計画を作成中と表現している自分は現在負けている状態です。そろそろ負けから抜け出さないといけません。紙面をお借りしてお願いですが、研究大会等でお会いした際は、「研究進んでいるか」とお声をかけください。そういうプレッシャーがないと動かない人間だと自認しております。自分との戦いに勝つために、御協力よろしくお願ひいたします。最後に凶々しいお願ひをして、3回の連載の任を解かせていただきます。御高覧くださり、ありがとうございました。

(新潟大学 田村和弘)